

青樓燈籠之始

玉菊全傳

花街鑑

中之卷

真山人編

白水漁人寫

煎茶早指南

尾礫舎主人著
月樵老人畱画

全本一冊

此書、尾陽の人尾礫舎の著述、遊外高賣、方筭の肖像を模写し、箱に煎茶の具、和漢の茶道具を備ふ出、煎茶の式を委論、おのづから煎茶の水加減、朝夕不用、大小蓋あり、毎家不遺、番茶の類、此煎法を以て増減を加、時ハ百茶も変、く喜撰一森、鷹の爪の高味を、以て夏ハ巻中、小委、見え、り同好の雅客、拭、其、機、論、を、関、々、先、哲、の、格言、祥、ある、夏、を、知、る、べ、く、寶、早、指南、の、書、こ、の、ま、の、の、あり





五菊いもぎく花街鑑はなまちかん下卷げまき

○第三章

鼻山人著



其君そのきみ非あらざれば事こともそのともなる非あらざればともなるともとせむ
 伯夷はくいと未や至ちるちた方かたといふいむ。汗あせ君きみををも羞はむは小宮こみや
 ををも卑ひとせむ。柳やなぎ下した息いきをを。雜ざ工く破を乱らん離りるり人ひとと
 せん。割わり床とこの隘あやましと。岡おか場ば所ところの恭うやかかるる與よ
 君子きんしハ由よしむと孟子めいしイスい富ふ貴きはは滋し之し希き貴き之しのの

人への物出入もこの面エの碇さかまへる。今亭うね
羽織ハ七々子の蕪房小りん。裏ハ黒襦袢の毛括
合せ。定めく胴裏ハ白襦子あく。放逸先生の。事

画少しものあぶくとおのる。びびもまらち。尻をさか
浅田屋あさうで一寸と呑ことる。ホロ酔持娘の

完爾りの丸刻くえがあ従ちいざありありありあ中ちのち茶ちやち
矢張山口久孝おちりちもち儼ち人ちごちらち。巴ち有ちがち姉ちらち子

丸久ひくきざきらきヨき去き年き俄きのき時きおきりきとき結き子きのき行き

だヨ **[幸]** とうらん **[苑]** 亭きやア折し。其乳少ど

あ **[幸]** 山口巴とまらや。聖天大信作 **[苑]** ざふ

らぎ。強勢子もんでぬるをえとけしるめがなれり

中 **[幸]** 神候ふ。よくまる男サをれごころ。四の舞

昌まを教る。をこるみせ入 **[苑]** 去年も如田の不敷の

開帳子。御膳水を毎日。よく深川をど。知る

中 **[幸]** 子 **[幸]** ともい金程 **[苑]** 吐くあがら。宿

神門を接る。是より往來の風。累妻るん比まらへの

まろむはし。新内あらきの浮うき草くさが。ロろニに強たかのり

か。はしはききく。昔むかしも今いまも搏つからら後のちに略りやくまでまで 免幸の

友とも個ごハ七しち彩さいのら。ロろ巴はのら。それそれくくの換か抄せうよよ

二ふた階かいのら子こははぎぎきき。薙か者やの滑な勢せう。チちリりッっととテてしし。ちちん

ががんんのらたたちちををああどどくくししたたれれどど。これこれをを略りやくししままねね

女おんなががううんん。玉たま菊きくががかかららままををままととままりりのら 女丁ていなな今いまもも喚わ

ハは 幸 女 モ シ

ままさんさんへへああままりり解とけけ女おんな危あやがが能よとと呼よびびままるるらら。

あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

りたさ。えい。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

何とらふのい入女あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

五章さんといふ。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

少いものあつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

出のやせうあつていふたや(の)いあつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。あつていふたや(の)い。

下く。安んず。中一。まろ。是より。角町萬壽屋の。

樓上より。我。各。坐定。おつて。振袖の。あんどぎ。樂

焼の茶碗へ。湯茶をあをたて。帛紗ちくさのせとく。免めんの

ふらふら。出ま。又。足。あみの光。白糸も。これ。あどぐの。小冊せうさくは

いづつ。と。云む。供玉きよたまきくら。瀧たき之。糸の。まじし。と。入。ゆ。え

あ。も。起。り。げ。初會の。客の。り。あり。耳。悠々。愁。せ。し。と

今の。事。我。その。粧。ひ。貴妃。を。歌。ま。李。夫人。を。壓。ま

彼。天。上の。茶。花。も。依。り。耶。や。ある。を。ま。と。後。の。法。を

たよりありあふむかひの女もう いんげん 柳葉とトツらぬよ。玉菊 きんぎょ 遊らぶら

な 教をふそく。ハツトをふりよ まきえ 赤面あり。柳のつづあぐり

うらふ 喜ひひく。柳裏もくれしもの たかまが 只私じさふ。富 たか 惑

あゝ。惜 たが 一立 を 流 を 由 を 失 を ひ を ぐ。さるがよ あま 人目のせ

あれが。涙 なみだ ならく あうく 柳 なみだ にも玉章 たまげん のろいともさく あま へ

あま あま 柳 あま 葉 あま は あま サ あま 柳 あま から あま ん あま の あま 柳 あま ぐ あま へ あま ト あま 葉 あま へ あま 玉 あま 菊 あま

柳 あま 葉 あま は あま ツ あま なる あま 案 あま 也 あま 又 あま 花 あま 老 あま の あま 大 あま 柳 あま 葉 あま 柳 あま

然 あま 而 あま 后 あま は あま 床 あま 柳 あま 葉 あま なる あま。床 あま 柳 あま 葉 あま なる あま。然 あま 而 あま の あま 柳 あま

後者茶やの女ぎうもさうおひひ。直ぬるおき

引々思ひのひひは 玉菊のふのふも侍のひひ。玉菊を

おぬくさうふくさく溢さんよく舞移るまへく。さ

え〜ひひ〜ゆかさ〜。うまのういよあつはし。

よしのみ 上 **見** んいふたであひのふらち

疲病のうつはりおく。ようち。ど後牌のふ中〜ら

よま〜のふで合括く。それからゆを沙汰のふひ張

ら。大味さぬの房りる女のまもつらむ。お

えんいら。と 戸が園園立て せんさ。 瀟りのら入を寄て。 楓
子とやび。如斯くトキの信説は行が後色。抄り入の
るも。叔父さんとからがーし。谷中の方へ連々く移してト
抄へそくくれいを娛いふ。目く尋ねられども。叔父
さんのだも。たづの島らび事をいんで居る中へ。今や
徳の事。アノ客人のらら。見守り日根はまる。なまを
タアで里入事。アノヤの口で抄り入の事。いふと
り。昏る。あかへ。か。の。好。一。カ。

百むい^{ちひ} 精^{しん}一^い。世^よ長^{ちやう}悲^ひの^のち^ちど^ど。夏^{なつ}かよ^{かよ}あ^あの^のし^し。あ^あの^のち^ちと^と
嬉^{うれ}し^し。お^おの^のめ^めい^いむ^むら^ら。孝^{かう}の^のら^ら。死^しる^るも^もあ^あく^く。世^よを^をん^んの^の
ろ^ろく^く。お^おの^のち^ちの^のま^まよ^よ。世^よの^の別^{わか}れ^れ。世^よの^の嘆^{なげ}。世^よの^のあ^あら^らま^ま
身^みの^の強^{ちやう}あ^あつ^つと^と。世^よの^の結^{むす}まる^る人^{ひと}も^もあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^の細^{こま}い^いの^のそ^その^の
お^おの^のら^ら。お^おの^のち^ちの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。
定^{さだ}業^{ぎやう}で^でせ^せひ^ひつ^つあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。
お^おの^のめ^めい^いむ^むら^ら。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。
お^おの^のち^ちの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。世^よの^のあ^あら^らま^まら^らう^う。

さへあのあればぐらいのあられぬ美づちはねむぢあいく

のともあらう。孝ま行の仕なりとおのりまりしての仕とあ

らいふはならずでからいをもとりしてのあらいの謀け計と

と。歎なれ一口おからいしてはならず分ているを

歎なれ一口おからいしてはならず分ているを

おのりしてはならず分ているを

ならず分ているを

おのりしてはならず分ているを

らむいさるゝもさびく果はつらむのあむいさむあむいさむあむいさむ
おしむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ
おしむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

玉おしむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

根ねいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

ああむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

下あ総あのあ玉あとあからあいあむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

ああむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

ああむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ
玉ああむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

○^男これ^も矢^強多^くづ^くの^因果^{なる}を^あら^わせ^しめ^り

○^五其^の後^には^又明日^後に^ひと^あら^わせ^しめ^り

夜^があ^らわ^せし^めり^又明日^後に^ひと^あら^わせ^しめ^り

から^はら^の人^のを^あら^わせ^しめ^り [○] ^五 ^あら^わせ^しめ^り

は^あら^わせ^しめ^り [○] ^五 ^あら^わせ^しめ^り

ま^の女^房 [○] ^五 ^あら^わせ^しめ^り

ま^の女^房 [○] ^五 ^あら^わせ^しめ^り

ま^の女^房 [○] ^五 ^あら^わせ^しめ^り

ぢや。ぬり。おのひま。[家] さんなる。おろせ。

嬉うれしがせ。おろせ。お出あせ。飛とぶ。おあい。

[孝] ちや。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

ら。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

獣ち子う。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

あ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

た。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

[と] ち。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。おろせ。

かゝぬ程を長く明して為さるゝの。そのたゞまりが
愚癡とあり。彼を至する。きつむとのと。後口合せの所
もあり。されど玉菊ハ。滋ニ希ハ換へ。しと。おの
客あるれば。おのぼら。備立の变化ハ。旗色の目
しを利く。陣を引。敵あり。又滋ニ希ガたれハ
横銃を入きられ。遂ニ。勝利をひき。して。彼を
大將もあり。那のどくして。教まの客の女を切
る。只滋ニ希ガ。ん。の。疑ををら。さん。の。ひ

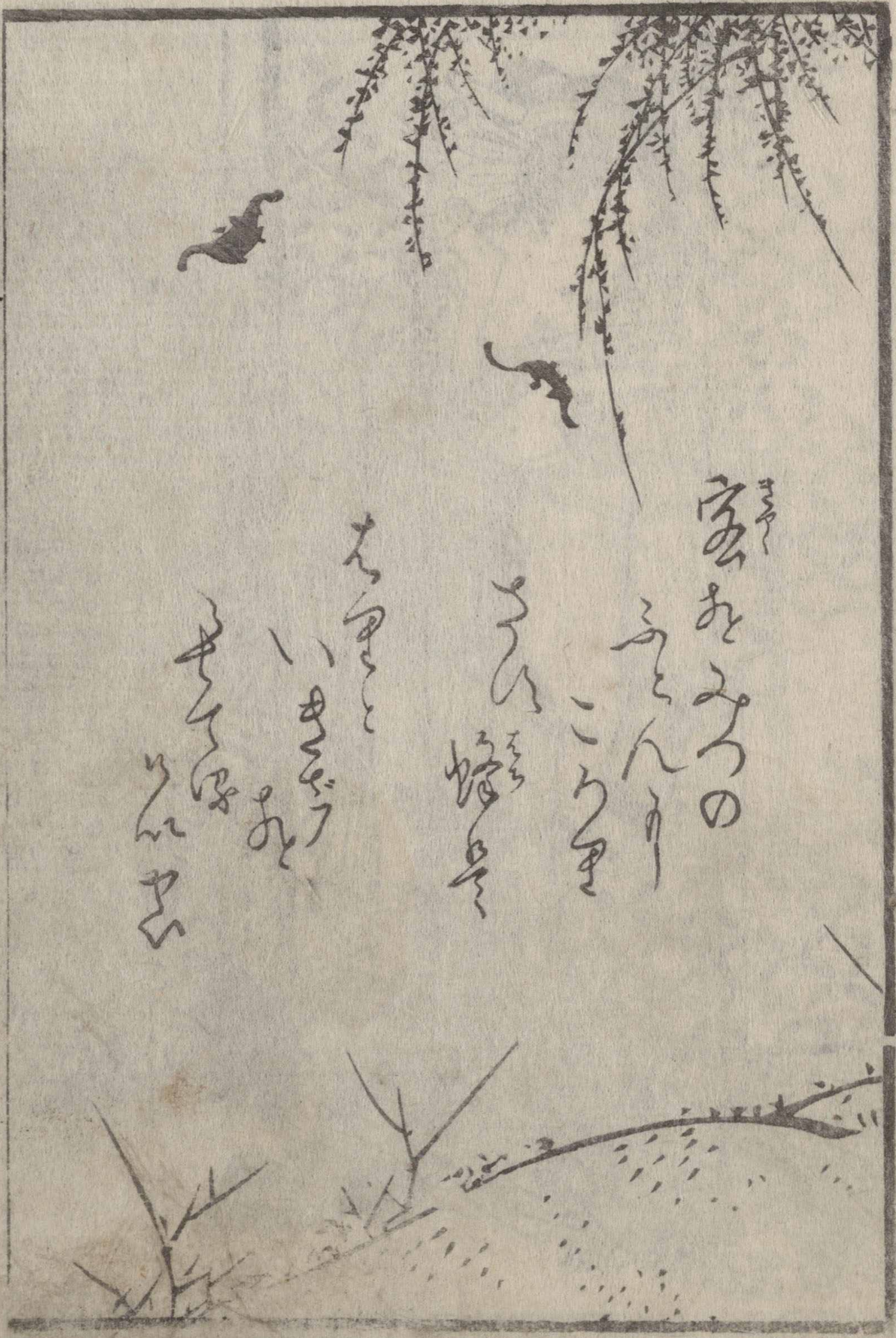
あつたる。されども金^{かね}を^をの^の坊^{ぼう}く^く熾^{さか}ん^んある^るる^るの^の濼^{たふ}と^と
 づ。怒^{いか}風^{かぜ}強^{つよ}ま^ま中^{ちゆう}し^しく^く。金^{かね}銀^{ぎん}を^を碎^{くだ}の^のど^どく^くお^お捨^{すて}。日^ひ鼎^{てい}残^{ざん}
 錨^{いかり}の^のど^どく^くお^お拗^{あが}ら^らう^うく^く。し^しき^きら^ら惜^あむ^むん^んあ^あく^く。夜^よを^を日^ひよ
 継^つぐ。遊^{あそ}宴^{えん}の^の驍^{せう}勇^{ゆう}。又^{また}よ^よ他^たを^を顧^から^られ^れば^ば。玉^{たま}菊^{きく}ハ
 方^{あた}ま^まよ^よ公^{こう}配^{はい}して^{して}一^{いつ}天^{てん}の^の君^{きみ}た^たあ^あも^も。驍^{せう}ま^まる^る老^{らう}の^の久^{きう}一^{いつ}
 か^から^らび^びら^らん^んや^や契^{ちぎ}郵^{ゆう}よ^よ。長^{ちやう}生^{せい}殿^{でん}を^を移^{うつ}し^し。嘉^き尼^に城^{じやう}を^を
 荒^あら^らま^まの^のぶ^ぶ究^{きゆう}め^めて^て九^く絃^{げん}の^の悔^{くわい}あ^ある^る。款^{くわん}し^しと^とあ^あら^らん^んと^と只^{ただ}
 管^{くだ}ハ^ハれ^れを^を煉^{ねん}め^めて^て濼^{たふ}ら^らう^うが^が身^みの^のう^うら^らよ^よ。恙^{しやう}心^{しん}あ^あら^らん^んを^を

ちで。表あはひきりふおれが名なで。とんま其その方の二面くめんをく
 新あら肉あ奴いの。正ただぢは。徳とくせう。然しかるるは。澁しぶと希まれハ指ねづと
 身み代しろの。令ひま希ま株ぶあれば。と百ひゃくあや。ふ百ひゃくあの令ひまふの
 風ふう前ぜんの。茶ちやの。どんよ。押おのひたれば。玉ぎよく菊くが真ま実じつを
 弓ゆみままぎましあく。せあひひるるの。偽いつはり惑ごを。ちちはまであと
 別あべ漆しままのたる。客まかの。かましまあく。いいとあく。はは方かたら
 聖あが者ものををいいあくとく。切きしとぎあく。ふふ多た教
 定まよよ流りゅう名なを。延えん寿じゆうと。秘ひびと。頗まるる大だい令れいりちの

大盡客あり。これ玉きくが家出のちとく
 内儀あり。月の客入あり。指別世活あり。さび
 ぐおその愚美を抄ひて。今又強敵もあつが
 弟ら身のう入のなるも。美踏あり。しまは契延寿
 一人の玉菊もさう。さくらあもあまきあるりて。あ実
 体をらまもは仲あ。んせくれ。延寿もそのにじめあり
 玉きくが身のう入の候。あまきをう候。よ抄ひ。金銀も
 情まあ。是まあ。世活あり。さう。疑あん。あ。く。孫

我わがよりよりかかは実まことの情なさけはあづかる者ものもあはれまじら
 自みづか惚ぼれままろろと通とほひひる。又また玉たまききくくの美みくく共とも知ち壽じゆ
 るるをを滋い之の希まれは少ち明あきくくららんんと相あひひがが妻よめののあありり
 偽いつはり惑ごうししきききき質しつはは偽いつはり惑ごうゆゆののままづづぶぶびびああららじじ
 ありありののままづづららじじてて却かへりりののままづづららじじののままづづららじじ
 ののままづづららじじかかぶぶ。ここのの滋い之の希まれがが一ひと人ひと身みのの追おひひ
 ととああららじじああれれててああれればば只ただそのの物もの入いのの少すくななららん
 るるをを一ひと國くにののああららじじををううららじじ。偽いつはりののままづづららじじ一ひと秘ひ一ひと隠かく一ひと





ま
あをみりの

みんり

こりり

さ

は
は

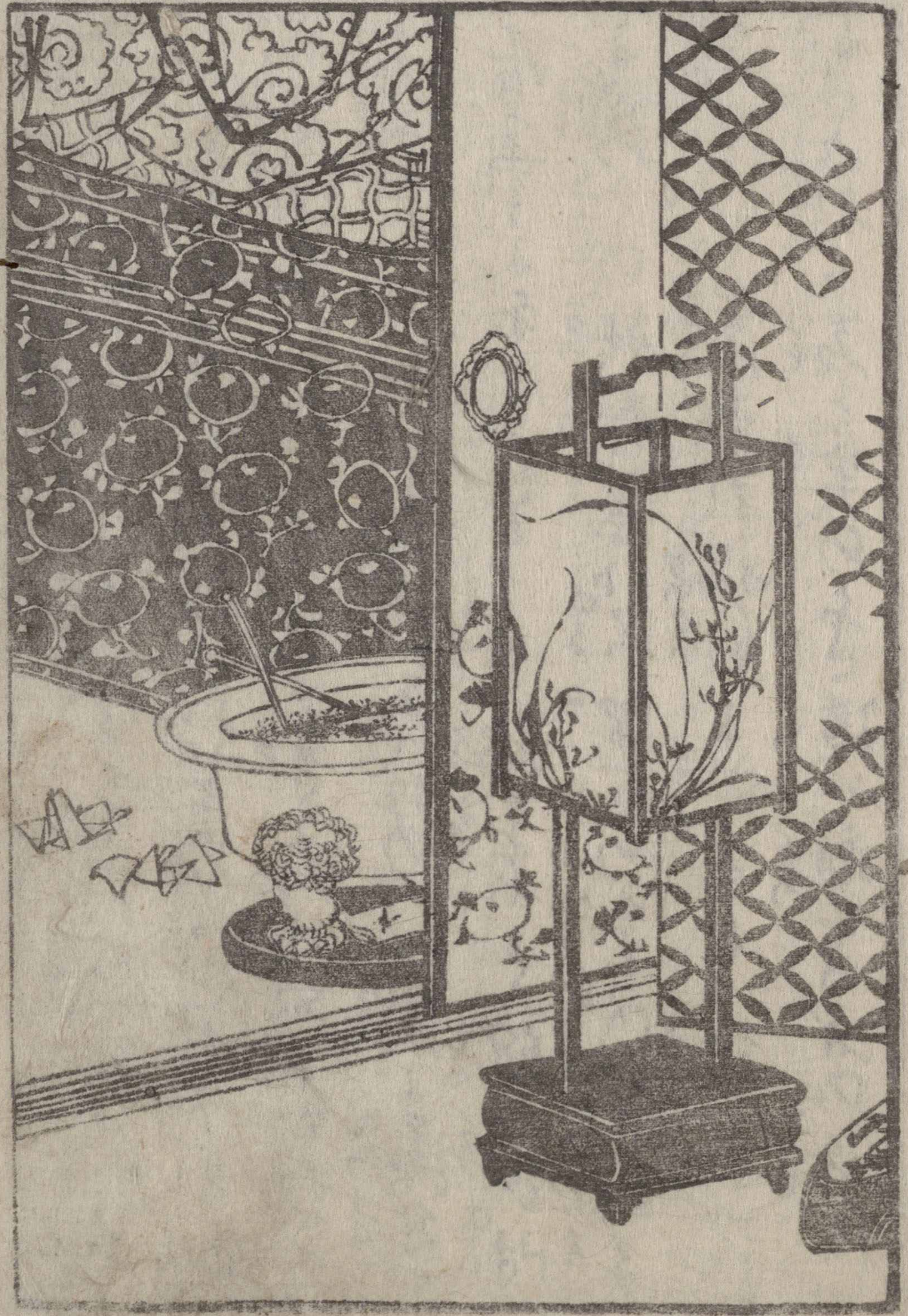
ま

あ
あ

あ
あ

あ
あ





影をみ母の苦方よあし。金きふ入厭後ど。刻
我は。物食ふく。於ひのせあひくと。あえむ。細
も。安法後ぞ。しつものよまきよ。い。如くもあは
後。女がうよ持せあは。母のつと内よ。流有て
居る。まうよありませう。ト。雌。鷄。を。わ。く。雄。鷄。の。時
よ。あ。う。の。能。智。慧。ト。名。智。在。る。の。ゆ。え。の。昔。歎。子
を。い。して。あ。お。娘。は。よ。依。る。ト。頑。あ。の。い
が。い。れ。ど。あ。と。実。の。を。道。の。勉。ま。る。身。の。骨。は。し

て。金^つを^つり^つせ^つる^つふ^つの^つ管^つより^つ。実^まら^しい^まを^もに^まじ^りか^して
身^みの^み入^りを^も契^せ容^りゆ^と。憑^たり^まむ^んの^み体^たい^れあ^れば^{。連}れ^れ真^ま女^に
の^み。鑑^{かん}と^ある^{。そ}の^み心^こ底^ぞを^も撰^{せん}ら^む。身^み債^せあ^る
ど^も。抑^おり^ふあ^る。縁^{えん}で^せひ^ある^{。抑}り^ぬは^満ふ^{。送}じ^さる^{。屍}
屍^しの^み居^いる^{。金}を^も出^でた^{。その}入^り。ふ^縁と^ある^{。が}親^{おや}
子^こが^私を^も。世^よに^さる^{。ま}も^面目^{めん}あ^る。か^うま^をを^も。と^まじ^り
て^らら^{。我}も^ある^{。が}ふ^あが^{。二}子^こあ^る。身^み債^せし^て。あ^る
ふ^{。あ}る^{。と}か^{。あ}る^{。抑}り^なる^{。あ}る^{。が}は^る。ゆ^{。い}ん^{。は}

江戸っ子の親父様。年ハ身てもあつては。おつこり
よく足はふる。那て名知有るハ。傳代ある通ひ。妻
政の隣。きよとらふ老をひそくお拒ぎ。粉漉ニ弟が
く。死身を方をも。寿玉の姉。玉きくが。底。伏
を。弓。ま。ん。あ。る。り。又。老。を。り。そ。敷。き。呼。ぶ。る。り。是。を
ひそくは。探。り。知。り。た。し。その。せ。い。か。く。の。次。身。身。侍
の。り。を。く。ん。く。つ。ま。ま。これ。を。い。は。す。も。は。い。し。あ。る。り。き。評
より。お。は。は。じ。基。は。ら。り。つ。て。考。慧。を。し。ら。る。り。是。よ。つ

たの 笑つゝるも。これ若かりし時。可穴の梳とあり。馬と無をそそ
 せし 伸るやう。こま 樂が女やうとらえるほどの昔 鄭の
 養を 養ふありしを。うろくやうく 連奉る。世帯のち 啓
 事と ぬく。さうして 通ひの 妻の ことを 勉める。今も 年頃の
 爺か ぬふ。大ま 掃の ときさうしあまの どの 家の 中よ
 子あつれば。一巻 持帰す。馬 轡を 折や。命の 洗
 しいよ。あつて するよしを 名を 右なるものか。ひく。あつて 指し
 くれ 幸ひある 供ひんと。うよ 飲び 郭 さいふ 討ひたる。

えんぶい 望み書もゆづれをまいて。さしもの連感あるもの。世へ
ども。さしづふ思をよきし。まゝ人の妬みは。嫌がごとく
最んかまをえり。ある。老幼の習性を出し。むう
まう。料塚をり。その。ある。実を。探らん。とな
ら。らの。ちよ。あ。と。得ん。は。して。ぞ。ぬ。り。る。

○ 身 五 章

さしもの 話悦紀の由。五の。ま。及び。望。ま。い。五。菊。が。胸。中。を

探らんたり。美壽屋の内へいり。雛妓買の直鳳
 滑秘者。目ざの玉。菊が新造の玉笠を。真々や
 定ちと。そのおハウラ人。宛本新名。揚て二階で
 一階。酒。目白。竹村の春の物。ま
 幸をさね。媚顔を笑あひ。まの字。春のころ
 物。ふ。喰。疑容もある。土屋
 口。冷。かん。桃子。強。惚
 花。笑。お。客。の。持。ま。より

五あさんこの茶を。一ツ飲ぐおんあん。 あ

いんあん。 あぬるしてはよおんあん。 あ

あらうや強勢カ。 あ酒も吞む者も食。 あ其の

拍子搦。 あ一巻の中

食ひ。 あをあそびながら あ五 あ二

おんあん。 あおんあん。 あおんあん。 あおんあん。

井 あおんあん。 あおんあん。 あおんあん。

おんあん。 あおんあん。 あおんあん。 あおんあん。

【巻】らふサ。五の井いづさんの不第ふぢが二変にえいく。勢いきく

らふしも。倉くらふやどら移うつ入いト押おひのたらびびあまよごも

又またて。厭いと鬼おにちやア毒どくのびんごいい
あどくからうひあがらほをのむらち
だいののゆあらしし斤しんがはあしてあまひ

鬼おにより種こゝろぐさるぐある。客きやくのうめさありて。床とこおき

今いま宵よ五ご菊きくがぎーし丸まるの客ひ

延の寿じゆ滋し三さん帝ていがるりを汚よごく業ぢぢんんくららの

うちよその思おもひありたれが也なり外とよなりまさく。流ながひよ

らいし浮ぬ糸【延】姫ひめ妓ぎは依あらまよく入のいよ

男^{おとこ}の^まき^まと^まぬ^ぬは^は限^{かぎ}つ^つち^ちや^や。よ^よの^のわ^わる^るの^のは^はく^くや^やと

後^{あと}の^の秘^ひ入^いの^のこ^この^のち^ちが^がき^きり^りる^るを^をお^おの^のり^りや^や。あ^あん

り^り。推^ま号^{ごう}を^をあ^あま^まに^にて^て。胸^{むね}を^をよ^よの^のを^を較^{くら}し^し。か^から^らな

風^{かぜ}の^の遭^あひ^ひ。今^{いま}と^とあ^あり^りて^て未^ま練^{れん}ら^ら。さ^さや^やか^から^らら^らあ^あも

ち^ちん^んぐ^ぐの^の秘^ひを^を並^{なら}ぶ^ぶ。か^から^らの^のを^をか^かく^く。か^から^らの^のを^をか^かく^く。あ^あん^んぐ^ぐの^のを^をか^かく^く。

さ^さも^も。ら^らの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。ま^まの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。だ^だん^んの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。

は^はの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。ま^まの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。だ^だん^んの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。

は^はの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。ま^まの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。だ^だん^んの^の秘^ひ入^いの^のち^ちが^がき^きり^りる^る。

持主

吉田米太郎菅原

重信

